



NPO 法人流山市国際交流協会

NIFANEWS

発行: NPO 法人 流山市国際交流協会
〒270-0111 流山市江戸川台東 1-4 3F
国際理解サポートセンター内
☎: 04-7128-6007
Email: nifa-support@bz04.plala.or.jp
http://nifa-home.sakura.ne.jp/



過去と未来をつなぐ節目 創立満 30 周年(5 月 1 日)・NPO 化満 10 周年(10 月 31 日)



式典を
開催

第1部

会長挨拶

小宮陽一



本日の式典にご参加いただいた皆様、お忙しい中ご臨席いただきました市長、教育長を始めご来賓の皆様にお礼申し上げます。

流山市国際交流協会の設立は 1991 年 5 月で、NPO 化されたのは 2011 年 10 月です。設立の前年、東ドイツがなくなり、世界が一つの色に染まっていくのではないかと、という感覚を持った記憶があります。また 21 世紀を迎えるに際し、争いのない、穏やかな世紀にしようと願望も語られていましたが、実際には激動の時代が続いています。

こうした中で、NIFA は歴史を重ねてきました。この 30 年間、本日ここに、感謝状を差し上げる皆様ばかりでなく、多くの皆様の活動が NIFA を支えてくださいました。残念ながら鬼籍に入られた方もいらっしゃいますが、そうした皆様のことも心に留めておきたいと思います。

この 30 周年を記念し、標語を募集しました。皆様から多くの作品をお寄せいただき、その中から、「広げよう世界の友と地域の輪」を優秀作品に選びました。

今や、流山市は人口が 20 万人を超え、今後在住外国人の方も増加が見込まれます。これから私たちの活動もますます大切になると考えられます。これからも地域の輪を広げ、より力強くしっかりしたものにしていきたいと思っています。

祝辞

流山市長 井崎義治様



流山市国際交流協会、設立 30 周年の記念式典、まことにありがとうございます。皆様には、平成 3 年の設立以来、歴代会長並びに多くの会員の皆様に多方面にわたり大変ご尽力いただきました。ここに、20 万 3,000 人余りの市民を代表し、敬意と感謝を申し上げます。

とりわけ昨年は、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、感染拡大防止策をとりながら在住外国人への相談支援を継続していただきました。心より感謝申し上げます。

また本年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。流山はオランダ王国のホストタウンとして、流山市国際交流協会のご協力のもと、市内小学 6 年生を対象とした「オランダ教室」や、一般市民の方を対象とした「オランダ料理教室」を開催いただくなど、オランダ王国との友好関係醸成にお力添えを賜りました。重ねてお礼申し上げます。

さて現在、流山市には在住外国人が 3,000 人以上おられます。地域経済の分野では、外国資本による、緑に包まれた最新鋭の物流センターが建設され、今月、これも外国資本ですが、アマゾンの物流センターが稼働を開始します。数年前、流山市民になられた世界的ピアニストのパスカル氏のプロデュースによる、「流山国際室内楽音楽祭」もいよいよ来年春、開催される予定です。昨年、日本国籍を取得された元アメリカ人が初めて流山市の人権擁護委員として、日本語のできない方々の話を聞いたり、相談に乗ったり、ご活躍いただいています。

こうした国際社会の一員としての流山市の環境整備が日増しに求められると同時に、その対応も、皆様のお力添えで着々と進んでいます。

流山市国際交流協会の皆様には、流山市民の多文化共生意識の醸成や、在住外国人の方が暮らしやすい環境整備に向け、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

授業を理解するには時間がかかることがわかっています。

流山市内の子供たちも少なからず言葉のカベを感じていると認識しています。子供たちが言葉のカベを乗り越えて学校生活を楽しむことができるよう、今後とも国際交流協会の皆様のお力をお借りできれば幸いです。

祝辞

流山市教育委員会教育長 田中弘美様



流山市国際交流協会の創立 30 周年を迎えられましたこと、まことにありがとうございます。

流山市国際交流協会の皆様には、市内小中学校で多くの子供たちの日本語指導を始め、様々な学習支援をいただいております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

文部科学省の調査によりますと、日本語指導を必要とする子供の数は年々増加しており、2018 年 5 月時点で、全国に 5 万人いると言われています。また生活言語は 2 年程度で習得できますが、学ぶための学習言語においては 5 年から 10 年かかるとされ、日常会話に支障はなくても、

第2部

記念講演

「多文化共生/異文化理解」も身近な人との普通事にしては

記念式典の第2部は講演会。「多文化共生/異文化理解」について、JICA(国際協力機構)から2人の講師をお招きしました。

キルギスで学んだ異文化理解への道

きむらあすみ
木村明日美様



最初の講師、木村明日美様は、2017 年 10 月から2年間、JICA 海外協力隊としてキルギスに派遣されました。この日は、キルギスでの生活体験と、そこから得た「異文化理解」について講演いただきました。

木村様は、キルギスの現地の子供教育センターで、子供たちに手工芸や、日本語、日本文化を教えています。親日の国で、沢山親切にしてもらったそうですが、最初は考え方の違いや言葉の壁もあり、同僚の人とよくケンカをされたようです。また習慣などの違いで「なぜ?」と思ったり、「失礼だ」と思われたことも随分あったそうです。

人は、自分の「当たり前」と違う選択をする人を否定的に捉え、カベを作りがち。しかし互いの違いが分かり合えると、居心地がよくなり、互いを補い合い、新たな違いの発見が面白くなる、という好循環が生まれ、世界が広がる経験を話していただきました。



民族衣装を着て、楽器(コムズ)を披露

(当日の講演資料から)



世界との日本のつながり、そして共生

くりきまけいこ
栗崎敬子様



2人目の講師、栗崎敬子様は、2008 年6月から2年間 JICA 海外協力隊、村落開発普及員としてスリランカで活動されました。

栗崎様は、まず世界と日本のつながりの実例を紹介されました。日本の衣食を賄うために

外国では環境破壊を引き起こしていること、「世界競争力年鑑」では日本は下位になり国力は衰退しつつあるが、外国への支援は必要であること、東日本大震災の時には、最貧国と言われる国からも支援があったが、これは過去に日本がこれらの国を支援したからであり、「持ちつ持たれつ」の関係にある等々。

共生について、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」という総務省の定義はあるけれど、その主語を、「出身地や家庭環境などの異なる人々が、」と置き換えてみる提案をされました。

(講演の要旨は記念誌5～6 頁をご覧ください)

多文化共生の定義(改)

出身地や家庭環境などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと

ふだんの暮らし?



(当日の講演資料から)

第1部

感謝状・表彰状贈呈

「NIFA の活動に貢献された多くの皆様に感謝」



祝辞に続き、感謝状・表彰状の贈呈を行いました。NIFA 創立以来、理事を務めていただいている法人会員、様々な活動を支えていただいていた賛助会員、元会長、各事業部で長年貢献いただいた皆様に感謝状を贈りました。(19 の法人、個人) また、「オランダ交流事業」でご活躍いただいた

ヨス・ニフユスさん、ステッフ・ヴァンラムーンさん、標語作品が入選された内藤茂昭さん、新井富子さん、小澤弥佐子さんに表彰状を贈呈しました。

(それぞれの方の紹介、写真は、記念誌 4 頁をご覧ください)



内藤 茂昭(ないとう しげあき)さん

(外国語支援事業部・標語の最優秀作品受賞)

Q. NIFA に入会されたのはいつ頃ですか、きっかけは？

A. ボランティア活動に興味を持ち、15 年ほど前に一度電話したことがあります。ただその時は現役中、土日しか活動できないと返事したところ、「退職されてお時間ができてからでいいですよ。」と言われました。そして一昨年の退職を機に入会しました。たまたま韓国語の関係で（外国語支援事業部）部長の金淑花さんとは 10 年来の知り合いでもあり、そちらでお手伝いをしています。

Q. 創立 30 周年の標語募集に、応募作が見事最優秀賞を受賞されました。どのような思いで作られましたか？

A. 私は現在、住んでいる団地で管理組合の役員をしています。ここにベトナム、中国、韓国、フィリピン出身の方が住んでおり、人数も増えてきています。こうした方にごみの分別、管理費の支払いや駐車場の利用方法、団地行事への参加など案内しながら、みんなが楽しく平和に暮らせる街づくりを目指しています。

「広げよう 世界の友と地域の輪」はそのような自分の団地を思い浮かべ、外国出身の方々も一緒に楽しく平和に暮らせる地域の輪が広げられたら、という思いで作りました。7、8 個作った中で、一番易しく、わかりやすく、口ずさみやすい作品を選びました。しかし最優秀とは思いませんでした。

Q. 五七五調なのがとても覚えやすいです。

A. たまたま俳句をやっており、同じ語調でできました。

Q. 俳句は長いのですか？

A. 俳句クラブで 6 年くらいになります。月 2 回、毎回宿題が出され、次回に発表しています。

Q. 韓国語に堪能でいらっしゃいますね？

A. 現役時代に 3 年ほど韓国、中国、台湾の輸出営業の責任者をしていました。駐在経験はありませんが、毎月この 3 か国に出張していました。その後国内営業に移るとどんどん言葉を忘れます。「これはまずい」と思い韓国語だけでも継続しようと、大学の韓国語教室に通いました。延べ 10 年近くになります。出張先では、仕事後の懇親で現地の人同士の会話を横目にただお酒を飲んでいることがありましたが、それが悔しく、「よし勉強しよう」とな

りました。動機不純ですが。8 年ほど前、千葉県生涯大学校に入学した時にハングル同好会を立ち上げ、今も継続して指導しています。

Q. ハングル文字は見るからに難しそうですが、抵抗感はありませんでしたか？

A. 実は、日本人にとり韓国語は覚えるのに最も簡単な言語です。ハングル文字は子音が 14 文字、母音が 10 文字、それで全部です。アルファベットより 2 文字少ないです。あとは子音字と母音字の組み合わせ、これはローマ字みたいなものです。また漢字語が多く、助かります。「無理」とか「有料」とか発音も近く、「高速道路で行こうよ」と日本語で言っても通じます。韓国語には漢字語が半分、固有語が半分、漢字語は発音もよく似ています。なので覚える単語は固有語中心で済みます。欧米語は全て覚えなければならないのとは大違いです。

Q. 他にどのような特徴がありますか？

A. 韓国語には日本語と同じように助詞があります。世界でも数少ない言語だと思います。「は」「に」「を」などのお陰で語順が入れ替わっても通じます。日本語の語順で話せるので、日本人には学習し易い言語です。欧米語のように助詞がない言語は、語順が変えられません。

Q. 韓国語も面白そうですね？

A. 頭の体操のつもりで始めてはいかがでしょう。

Q. NIFA 入られてどのような感想をお持ちですか？

A. 未だ 1 年 9 か月ほどですが、皆さん一生懸命やっていらっしゃる印象です。市内に 3,100 人を超える外国出身者がいるようですが、より多くの方に会員になってもらい、日本での生活をエンジョイできるようになればいいな、と思います。

A. また異文化カウンセラーとして、日本に来た外国の方が奇異に思われる習慣、マナーなどについて、その由来の説明などを通して日本での生活に慣れてもらう活動にも関心があります。少しずつお手伝いできれば、と思っています。

◆大変有意義なお話をありがとうございました。

(9 月 22 日インタビュー西山勝)





シャム エネシム (Sham elnessim) 春の始まり

エジプト/アブドラ・ムスタファさん / Mr. Abdullah Mustafa

アブドラ・ムスタファさんは、6月にサポートセンターを来訪、以来
外国語支援事業部での支援を通じ、交流が続いています。



私が心から懐かしと思うのは、子供の頃の、あの新鮮な春のそよ風の思い出です。それは、薫風のかぐわしさを求め、家族や友人が集まる、一年で最も待ち焦がれていた日です。文字通りアラビア語で「シャム エネシム」(春の始まり)と呼ばれるまつりの日です。

このまつりは、遥か 4,700年前、古代エジプトの時代に「シェム」のまつりとして祝われていたことに起源を持つといわれています。以来、エジプト人はこのまつりをずっと祝ってきました。「シャム エネシム」は、その日が毎年少しずつずれてきます。このまつりは、3月21日以降にくる、キリスト教太陰暦の満月の後の最初の月曜日(注1)に行われます。この日がいづになろうとも、また由来がどうであれ、エジプト人はみなこの日を、公園や野原へピクニックに出かけたり、ナイル川では柔らかな日の光と緑の景色を、そしてもちろん、おいしい料理を楽しむ機会としています。

このおまつりには、特別な伝統的な食べ物があります。もちろん、最もよく知られているのは、「フェシク」(注2)、グリーンオニオン、ルピニ豆(注3)、そして色付けしたゆで卵です。田舎に住んでいた私にとっては、その日は最愛の家族と一緒に野原で過ごしたものでした。忙しい都会の生活に追われている人たちにとり、「シャム エネシム」は自然や家族とのつながりを取り戻すチャンスなのです。

私は、仲間と色々なことをした思い出があります。畑から新鮮そのものの野菜を取ってきたり、木登り遊びをしたり、あるいは木に登っておいしい果実を取ったり、またナイル川の流れの中から魚を捕まえる競争をしたりしました。あわただしい日にあっても食べ物のことは決して忘れません。私たちは自分で色付けした卵、フェシク、燻製のニシン、塩漬けのサーディーン(注4)、葉物野菜などを食べました。

この日は、春風の匂いだけではなく、幸せの匂いももたらしてくれる日なのです。

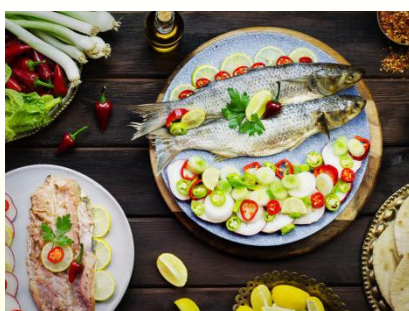
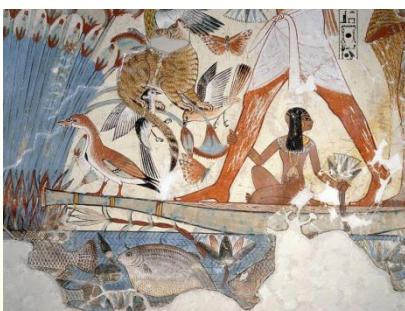
(注1) キリスト教太陰暦の14日目後の最初の月曜日(The first Monday after the ecclesiastical full moon):イースター(復活祭)翌日の月曜日と一致

(注2) フェシク(Fesikh):発酵させた塩味の利いた、干物のグレイ マラット(=ボラ類の魚類)

(注3) ルピニ豆(Lupini Beans):ハウチワマメ

(注4) サーディーン(sardine):ニシン科の一種

(日本語訳:西山勝 監修:橋本清さん 外国語支援事業部)





Sham elnessim

It is a childhood memory of a fresh spring breeze that I truly miss. It is a long-awaited day of the year where family and friends gather for a smelling the breeze; literally translated from Arabic as “Sham elnessim”.

This fest is believed to have its roots extending to the ancient Egyptian era around 4700 years old as the “Shemu” fest was celebrated, and the Egyptians has been celebrating it since then. “Sham elnessim” slightly changes time every year. It is held on the first Monday after the ecclesiastical full moon that occurs on or soonest after 21 March.

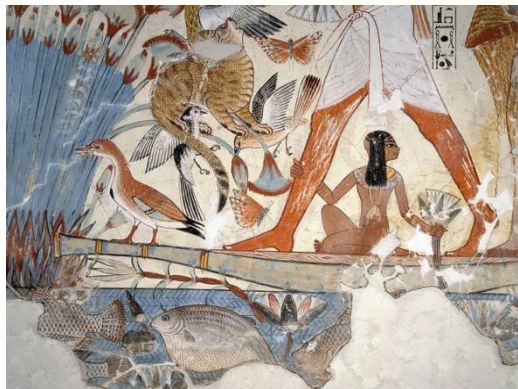
No matter when the day comes and what its origin maybe, all Egyptians find this day as an opportunity to go out picnicking in the parks, in the fields, and on the Nile to enjoy the gentle sun, the green views and of course the delicious food.

There are special traditional types of food related to this fest; of course, the most famous is “Fesikh” (fermented, salted, and dried grey Mullet), green onions, Lupini Beans, and colored boiled eggs. For me, a person who lived in a village, I used to spend that day in the field with my beloved family. For those consumed by the busy city life, “Sham elnessim” is a chance to reconnect with nature and family.

I remember us doing many activities such as collecting fresh vegetables right from the field, climbing the trees just for fun or for some delicious fruits, or competing for catching a fish out of the running Nile. Amid a hectic day, we never forget food. We ate the eggs we colored ourselves, Fesikh, smoked herring, salted sardine, and leafy vegetables.

It is the day that brings not only the smell of spring breeze, but also the smell of happiness.

Abdullah Mustafa



コロナ禍を乗り越えて

➤ sEODo BAND(ソドバンド 韓国出身 2019年 Special Night Concert 出演)



다들 잘 지내고 있지? 일본에 너무 가고싶다 ☹️

요즘 우리는 직접만나는 대면공연보다 온라인 공연을 많이 하고 있고 앨범 작업도 열심히 하고 있어!

그리고 수도권 말고 지방에서는 코로나 위험단계가 조금 낮아서 대면공연도 가끔 하고 있네 ㅎㅎ

또 9월 말 부터는 jbc 에서 하는 오디션 프로그램을 나갈까라서 열심히 촬영중이야 ㅋㅋㅋㅋ 어제 밤새 촬영하느라 답장이 늦었어 ㅠㅠ

우리는 이렇게 활동하고 있고, 일본 갔을때 우리에게 너무 좋은 기억을 회원분들께서 심어주셔서 감사하고 그런 좋은 기운들로 열심히 활동 중이야 ㅎㅎ 그래서 얼른 또 가고 싶어 ㅠㅠ 우리도 너무 보고싶어ㅋㅋㅋㅋ

みなさんも元気でしょう？日本にとても行きたい(泣)

最近僕たちは、直接会う対面公演よりもオンライン公演をたくさんしていて、アルバム作業も一生懸命しているよ！

そして、首都圏ではなく地方だとコロナの注意段階(注1)が少し低くて対面公演も時々やっているよ。

また、9月からJTBC(注2)で放送するオーディション番組に出演するから、一生懸命撮影中！

昨日も夜中まで撮影していて返事が遅れたよ。

僕たちはこのような感じで活動をしていて、日本に行った時から僕たちにとても良い思い出を会員の皆さんから頂いて、感謝しているし、そんなみなさんからの力で今も一生懸命活動中だよ！そして早くまた行きたい。

僕たちもとっても会いたい！(笑)

注1) 日本でいう緊急事態宣言のレベル

注2) 韓国テレビ局名

※日本語訳：小谷日果里さん(左のハングルはsEODo BANDからの近況報告の原文です。)

➤ サーシャ・リー・シールズさん(ジャマイカ出身 2020年12月 カレーチキンを紹介)

実は、昨年の大晦日、コロナにかかりました。幸い数日で治りましたが、困ったことが一つ。味覚障害になりました。何の味もしないのです(tasteless)。家で作る食事に、家族から「味がおいしいよ」と言われても自分では全く分からず。そんな状態が3か月くらい続きました。大好きな料理ができず、つらかったです。

1年前、友達とNPOの活動を始めました。コロナ禍の中、一人暮らしの外国人の困りごとをサポートしたいと思ったからです。寝込んでいた人にSNSなどで「元気？」と送り、「OK」の返事があれば安心。みんなで安否確認をしました。日本の健康保険や社会保険の制度は緻密ですが、外国人にとりとても複雑でわかりにくい。知らないために便益を受けられないこともあります。そうしたことの無いよう、法律や制度に詳しい人にも相談できる仕組みを作りました。

私は、料理が大変好きでそれに関する色々な活動をしています。この2年近く、オンラインでの「料理教室」も何度か開きました。おかげで今までにない人とのつながりが増え、「コミュニティ

を作りたい」という希望も実現できています。オンラインは、積極的に進めると便利さがわかりますよ。

少人数での料理教室も開きました。ジャマイカ料理にこだわらず、私のオリジナルを考え、作るのが好きです。「一緒に料理を食べると家族になれる」ように感じます。

学生の頃は、マーケティングを学びました。最終ゴールを目指すために途中でなすべきこと、また状況が変わった時には代替えの方法を選ぶこと、その選び方を学びました。コロナ禍で、学んだことは活かしました。

実はこの2年、ジャマイカに戻ることができません。これだけが辛く、寂しい思いです。早くコロナが終息してあの暑い太陽と、カリブの風に吹かれたいです。(サーシャさん談)



文化交流事業部 活動報告：ワールドハーモニー公開レッスン

Autumn Party 「フランス語で歌いましょう♪」



皆が持ち寄ったフランスゆかりの品々を囲んで「はい！ポーズ」
9月24日(金) 南流山センターにて

今回はネイティブのエラ先生を招いて「オー！シャンゼリゼ」の練習です。発音が何回も何回も直されてやっと最後に「よくできました🌸」と先生に太鼓判を貰いました。

コロナ下の公開レッスンですので、NIFAの会員だけを対象にしました。体験参加者は2名でした。後日、2名が入部したと連絡があり、皆が喜びました。(李)

編集後記

NIFAには2つの誕生日あり。生まれたてのはつらつき、新鮮さと、NPO化後の整った運営を目指す志に触れるにつけ、そのほどよいブレンドがこの先の私たちの活動の源泉でもあるのかな、と節目に考えます。